

日付:2015年7月5日／聖書:出エジプト記5:1～6:1

主題:「荒れ野で主を礼拝する民へ」

モーセは、主の召しに従いエジプト王のもとに、政治的交渉をする。主が言われた「わたしの民を去らせて、荒れ野でわたしのために祭りを行わせなさい」。ここで言う「祭り」とは、「礼拝」のこと。主への礼拝を奉げることを行っている。イスラエルの民の状況は、過酷な労働が課せられ、礼拝が奉げられる状況にはないということである。人は、神を礼拝する者としてつくられた。人が礼拝を奉げること出来ない状況にあることは、神が求めておられる人間の在り方ではない。もう一つ、その礼拝の場所が「荒れ野で」とは？ 荒れ野は、“何も無い”という意味。何も無いところで神を礼拝することは、何も無いがゆえに神にのみ頼らざるを得ない、神に向き合う状況がそこにはあるということで、それは同時に、日頃の礼拝においてもその場がまるで荒れ野であるかのように、ひたすら神により頼み、神に向き合う礼拝を奉げなさいということでもある。私たちは、神以外に余りにも心奪われているものが多いのではないだろうか。

民は、エジプト王の命令が厳しくなったのは、モーセとアロンのせいであることを知り、どうしてくれるんだと迫った。モーセは、主に訴えた。神の御言葉に忠実に従ったにもかかわらず、事態が以前よりも悪くなった。しかも一向に神は救いの手をのべてはくださらない。モーセは、神と人々のはざ間において、苦しみもだえた。しかし信仰には、こういったもだえがあるのではないか。どうしてですか神様・・・ということが私たちの信仰生活の中にもある。それは、私たちが、一生懸命に神に向き合っているからであろう。

マタイ福音書には、弟子がイエスに従って舟出した時のことが記されている。「すると突然、海上に激しい暴風が起こって、舟は波にのまれそうになる。ところがイエスは眠っておられた」(マタイ8:24)。モーセは、主のお告げを王に語るやいなや、イスラエルの人々への過重な労働がさらに増し加えられてしまう。イエスに従って舟出すると突然暴風が起こって舟は波にのまれそうになる。しかも、主はこの民を救おうとされないし、イエスは眠っておられる。まったく頼りにならない。しかし、ここでモーセは、主に向かって訴え、弟子たちはイエスを起こして「主よ、助けてください。私たちは死にそうです」と叫んだ。祈りとは、この訴えであり、この叫びであるのかと思う。ゆえに、主がこう言われるのだろう。「『わたしの民を去らせて、荒れ野でわたしのために祭りを行わせなさい』と」。私たちも「荒れ野で主を礼拝する民へ」と招かれている。心奪われず、主に向き合う祈りを、ご一緒に捧げて行きたい。(神谷)